

## 5. 北部地域の観光インフラ

### (1) 北部地域の観光資源

#### 1) 概要

沖縄本島北部は、本島中南部に比べると開発が進んでおらず、雄大な海浜景観や“やんばる”と呼ばれる固有種の多い深い緑の森林が残され、県外の観光客がイメージする沖縄の原風景に近い状態が保たれている。

このため、県内で最も多くの観光客が訪れる“美ら海水族館”をはじめ、“ナゴパイナッフルパーク”、“古宇利島”等の観光地が多数立地し、沖縄の自然環境が満喫できるほか、“今帰仁城跡”や“伊是名玉御殿”などの歴史観光も可能であり、往時の景観が比較的に残されていることが魅力である。

北部地域の主な観光地は次ページ以降に一覧表及び位置図を示し、その課題を整理する。

#### 2) 北部地域の観光資源の評価と課題

こうした観光地は、いずれもレンタカーを中心に多くの周遊観光客が訪れているが、交通手段がレンタカーに限られ、路線バス等の公共交通が少ないことが課題となっている。

また、クルーズ客を受け入れるためには、大人数の受け入れに対応した観光地や飲食施設が不足していることが課題である。

クルーズ客は、オフィシャルツアーも個人客も観光地を3～5か所周遊し、最後にショッピングセンターを利用するというコースが定番になっているが、県外の寄港地では、固定された少ない観光施設を小規模のグループに分け、時間差で利用するという方法をとっており、観光地への利用者の集中と混雑に苦慮しているが、北部地域には適度な距離の位置に多くの観光地があり、移動時間もそれぞれ必要であることから、分散は十分に可能と想定される。

沖縄の美しい海が楽しめる“海洋博公園”や、テーマパークとして娯楽要素の多い“ナゴパイナッフルパーク”、沖縄の雄大な海浜景観が楽しめる“古宇利島”、質の高い自然体験ができる“やんばる学びの森”、歴史観光としては、往時の姿をよく保存した“今帰仁城跡”など、多様な選択肢があり、クルーズ客はこれらの中から自分の好みの観光地を選び、自由度の高いコース設定が可能である。

このため、多様なテーマのツアーを造成することで、他地域で問題となっている利用の集中と混雑という課題はある程度解消できると考えられる。ただし、美ら海水族館については人気集中すると想定されるため、そのキャパシティについて次項で検証する。

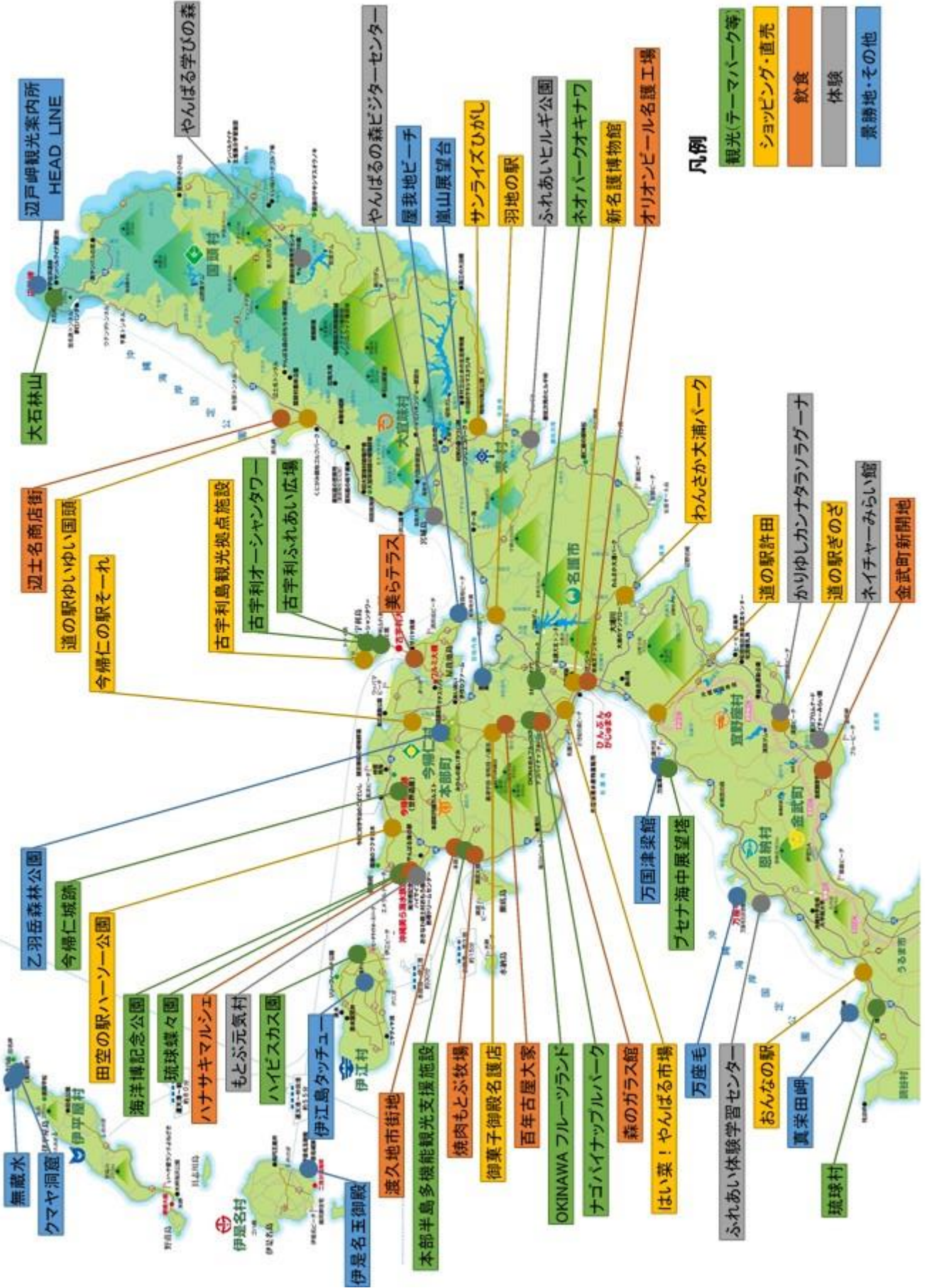
また、飲食施設についても、次ページ表に挙げた施設以外に、各観光地、道の駅、ショッピングセンターに飲食施設が併設されていることから、分散した受け入れが可能である。

直売店の欄に記載されている“おんなの駅”は人気の高い飲食施設が複数あり、貸切バスの対応も可能であり、極端な集中がなければ飲食施設として、十分に活用できる。

北部地域の観光資源

観光(テーマパーク系)	ショッピング・直売店	飲食・市街地等	体験	景勝地・その他
<p><b>既存施設</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 海洋博記念公園(美ら海水族館)</li> <li>◇ 琉球蝶々園</li> <li>◇ 今帰仁城跡</li> <li>◇ 古宇利オーシャンタワー</li> <li>◇ ナゴパイナップルパーク</li> <li>◇ ネオパークオキナワ</li> <li>◇ OKINAWAフルーツランド</li> <li>◇ ハイビュスカス園</li> <li>◇ 大石林山</li> <li>◇ ブゼナ海中展望塔</li> <li>◇ 琉球村</li> </ul>	<p><b>ショッピング・直売店</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 道の駅許田</li> <li>◇ 今帰仁の駅そーれ</li> <li>◇ 道の駅ゆいゆい国頭</li> <li>◇ やんばるの森</li> <li>◇ ビジターセンター</li> <li>◇ サンライズひがし</li> <li>◇ おんなの駅</li> <li>◇ 道の駅ぎのざ</li> <li>◇ わんざか大浦パーク</li> <li>◇ 田空の駅ハーソー公園</li> <li>◇ 古宇利ふれあい広場</li> <li>◇ はい菜! やんばる市場</li> <li>◇ 御菓子御殿名護店</li> </ul>	<p><b>飲食</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 焼肉もとぶ牧場</li> <li>◇ ハナサキマルシエ</li> <li>◇ オリオンビール工場</li> <li>◇ 美らテラス</li> <li>◇ 百年古屋大家</li> </ul> <p><b>市街地</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 渡久地</li> <li>◇ 名護市街地</li> <li>◇ 金武町新開地</li> <li>◇ 辺土名商店街</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ やんばる学びの森</li> <li>◇ もとぶ元気村</li> <li>◇ 恩納村ふれあい体験学習センター</li> <li>◇ 森のガラス館</li> <li>◇ ふれあいヒルギ公園</li> <li>◇ かりゆし</li> <li>◇ カンナタラソラグーナ</li> <li>◇ ネイチャーみらい館</li> <li>◇ 各ゴルフ場</li> </ul>	<p><b>景勝地・その他</b></p> <p><b>【景勝地】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 辺戸岬観光案内所</li> <li>◇ HEAD LINE</li> <li>◇ 乙羽岳森林公園</li> <li>◇ 万国津梁館</li> <li>◇ 嵐山展望台</li> <li>◇ 万座毛</li> <li>◇ 真栄田岬</li> <li>◇ 伊江島タッチュー</li> <li>◇ 伊是名玉御殿</li> <li>◇ 海ギタラ</li> <li>◇ 無蔵水</li> <li>◇ クマヤ洞窟</li> <li>◇ 各ビーチ</li> </ul>
<p><b>計画施設</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 古宇利島観光拠点施設</li> <li>◇ 本部半島多機能観光支援施設</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 新名護市博物館</li> </ul>	

北部地域の観光資源



(2) 美ら海水族館のキャパシティに関する検討

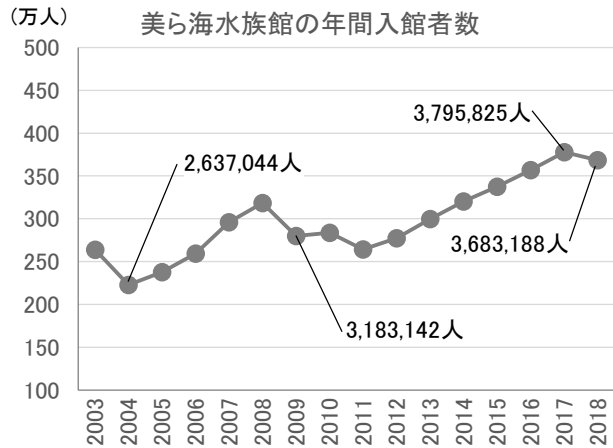
沖縄本島北部地域には複数の観光地が立地しており、多様なコース設定ができることから、県外寄港地よりも、集中や混雑を避けやすい条件が整っている。

この中で“美ら海水族館”は特に人気が高いため、集中が予想され、キャパシティに関する試算を行う。

美ら海水族館は沖縄県を代表する観光施設であり、開館以来多くの観光客が訪れ、2018年には、370万人が来訪している。

一般に美ら海水族館の入場者数は、1日1万人程度であれば快適に利用できる上限であり、これを超えると徐々に混雑を感じるようになっていわれている。

一方、2018年の日最大入館者数は18,000人、2017年は22,000人であるが、過去には40,000人を超える入場者もあった。



出典：沖縄県観光要覧より作成

(GW小児無料日等)

美ら海水族館の日別入場者数は下表のとおりであり、夏休みやゴールデンウィークなどに入場者数の多い日がみられる。

美ら海水族館は、過去に何度も混雑したことがあり、そのための誘導マニュアルもしっかりと整備されているため(ヒアリング)、快適性は別として、安全上の問題は発生しないと考えられる。

美ら海水族館日別入場者数(2017年)

順位	日時	入場者数	順位	日時	入場者数	順位	日時	入場者数
1	5月 5日	21,969	11	8月 20日	14,648	21	8月 5日	13,721
2	5月 4日	19,617	12	10月 8日	14,558	22	7月 16日	13,675
3	12月 8日	17,258	13	11月 24日	14,355	23	3月 26日	13,649
4	3月 19日	15,902	14	4月 3日	14,339	24	8月 16日	13,593
5	4月 1日	15,775	15	11月 4日	14,313	25	7月 30日	13,587
6	8月 21日	15,735	16	4月 2日	14,250	中略		
7	3月 27日	14,939	17	8月 7日	14,112	359	1月 10日	5,816
8	8月 13日	14,845	18	8月 4日	13,975	360	1月 12日	5,806
9	8月 12日	14,804	19	7月 25日	13,944	361	12月 20日	5,710
10	5月 3日	14,669	20	8月 14日	13,792	362	12月 22日	5,504

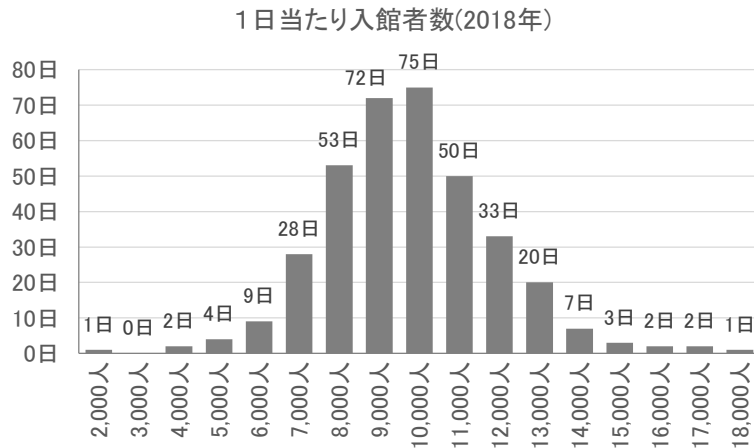
美ら海水族館日別入場者数(2018年)

順位	日時	入場者数	順位	日時	入場者数	順位	日時	入場者数
1	12月 7日	18,032	11	5月 5日	14,747	21	8月 25日	13,547
2	8月 21日	17,625	12	2月 11日	14,601	22	8月 19日	13,506
3	8月 11日	17,081	13	8月 29日	14,344	23	8月 26日	13,502
4	8月 15日	16,561	14	8月 12日	14,343	24	8月 14日	13,498
5	5月 4日	16,396	15	3月 26日	14,047	25	3月 30日	13,427
6	8月 16日	15,552	16	8月 28日	13,998	中略		
7	5月 3日	15,472	17	12月 31日	13,954	359	10月 5日	5,138
8	4月 2日	15,084	18	7月 27日	13,627	360	7月 21日	4,122
9	12月 30日	14,957	19	3月 31日	13,620	361	7月 2日	4,023
10	8月 2日	14,792	20	8月 24日	13,590	362	9月 30日	2,974

出典：美ら海水族館 HP より作成(<https://churaumi.okinawa/sp/guide/conzatsu/>)

上記を出現頻度別に集計したのが下図であり、10,000 人を超える日は約半数あり、混雑等で快適性が損なわれる可能性はあるが、安全性の確保に問題はない。

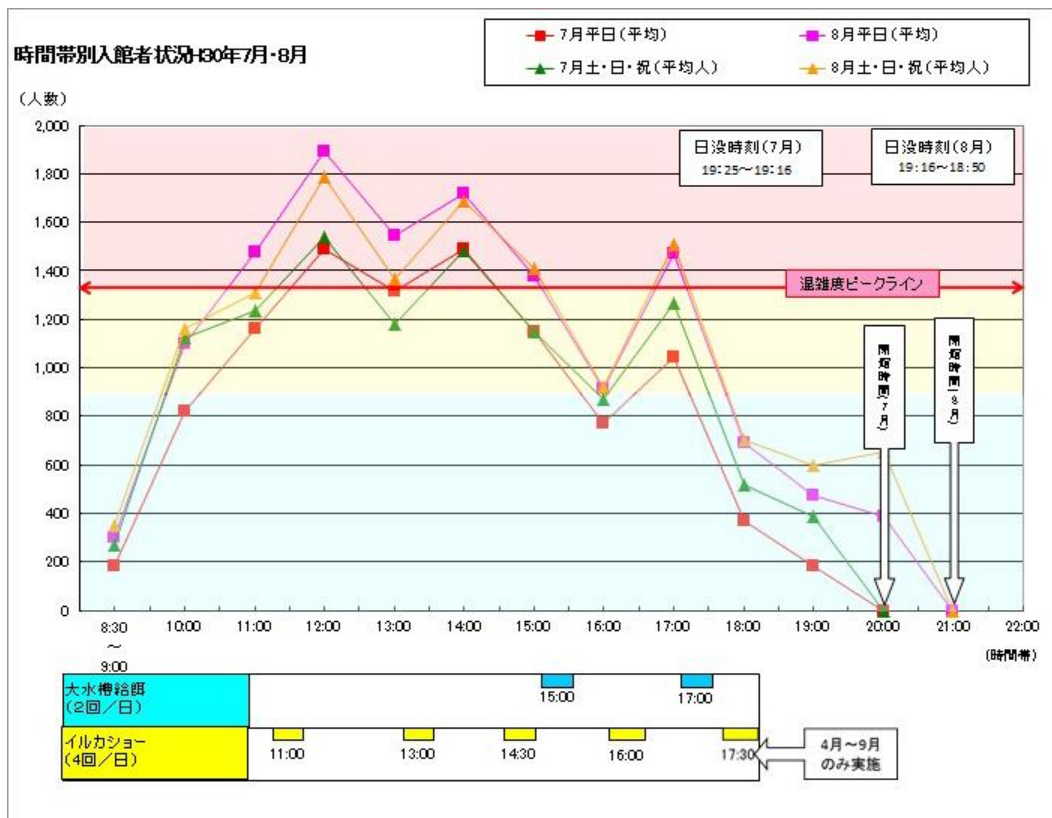
仮定として、2018 年の入場者数にクルーズ客 5,000 人が加わったとしても、2017 年の最大値より 1,000 人多い 23,000 人であり、問題は発生しないと考えられる。



出典：美ら海水族館HPより作成(<https://churaumi.okinawa/sp/guide/conzatsu/>)

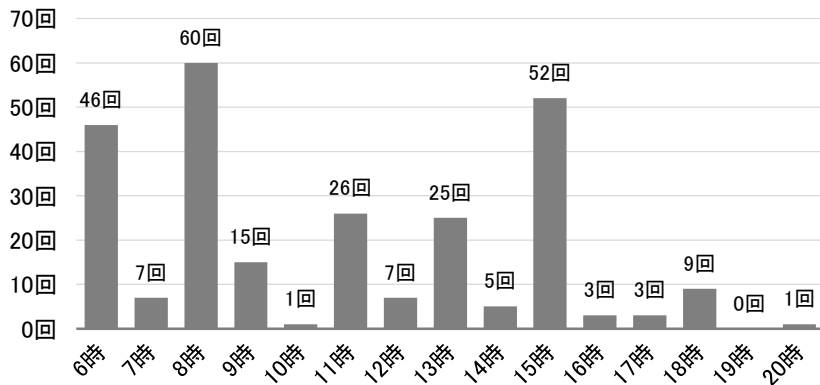
さらにクルーズ船の入港時間は、6時と8時、15時にピーク(※那覇港の例を参考/次ページ参照)があり、その1時間後にオフィシャルツアーが開始すると仮定すると一般客のピークと重ならない時間帯に利用できる可能性が高いが、時間当たり入場者数が約 1,350 人を超えると混雑度がピークに達するため、大型クルーズ船の場合、クルーズ客のみで混雑する可能性がある。

このため、同じクルーズ客でも入場時間をずらすなどの対応が現実的である。



出典：美ら海水族館HP(<https://churaumi.okinawa/sp/guide/conzatsu/>)

那覇港の入港時間(2019年)



出典: 那覇港管理組合HPより作成(<https://nahaport.jp/users/kyakusen/>)

(3) 交通基盤

1) 貸切バス

クルーズ客は大人数であり、貸切バスの利用率が高いため、以下に沖縄本島北部の貸切バスの現状についても検証する。

沖縄本島の観光は、大多数が那覇空港を起点とするコースとなっており、多くの貸切バス事業者が那覇近郊に拠点を構えている。

本島北部に関しては、現時点で貸切バスを配車しているのは第一交通バス及び北部観光バスの2社であり、合計 32 台が運行している。この台数に関しては、需要に応じて南部のバスを北部に移動する等の対応ができるが、運転手の居住地もあり、自由度は高くない。

本島北部の貸切バス

第一交通グループ	11 台
北部観光バス	21 台
計	32 台

※2019年7月ヒアリング

また、本島中南部や平良港の事例では、需要の増加に伴って貸切バスも増車しており、将来的にクルーズ船の寄港が増えることで、見合う台数が確保されると考えられる。

しかし、本島北部の場合、クルーズ船以外には貸切バスの需要が多くないと考えられ、貸切バスの維持はクルーズ船頼みとなってしまうことに留意する必要がある。

中南部の車両を利用する場合、北部への移動時間の料金も上乘せして請求することになり、割高となってしまうことが課題である。また、利用時間も運転手の労務管理の問題で、利用できる時間が限られてしまうことも問題である。

バス運転手の1日の最大拘束時間は 13 時間(交替運転者の配置基準/国交省)に制限されているため、北部地域でワンマン運行する場合、ツアーに利用できる時間は約6時間と算出される(右表)。

このようにクルーズ船の受け入れに際する貸切バスの問題は避けては通れず、今後地域で対応を検討する必要がある。

参考: 南部貸切バス使用時間

内容	時間
点検呼	2時間
本部港往路	2時間
下船待機	1時間
<b>ツアー</b>	<b>6時間</b>
那覇帰路	2時間
計	13時間

## 2) 路線バス

本部港周辺の路線バスについては、本部港と伊江島を結ぶフェリーターミナル前に本部港バス停があり、海洋博公園(美ら海水族館)向けには、65、66、117 系統、やんばる急行バス、沖縄エアポートシャトルが計 40 本/日(平日)運行している。(65・66 系統のうち4本は、途中でルートが分岐し、海洋博公園前を通過しない。)

また、名護向けには同じく 65、66、117 系統、やんばる急行バス、沖縄エアポートシャトルが計 44 本/日(平日)運行している。

また、今帰仁城跡に向かう場合、やんばる急行バスが 10 本/日運行し、さらに本部町博物館前から、今帰仁城跡、古宇利島に向かうシャトルバスを3本/日運行している。このため本部港から美ら海水族館への移動は、時間帯による差はあるが、15～40 分程度の待ち時間が発生する。

このように美ら海水族館の利用は、既存の路線バスを利用することも現実的であるが、今帰仁城跡など、他の施設を利用する場合、運行本数が 10 本/日程度と利便性が落ちる。

※上記、運行状況はすべて 2020 年2月時点調べ。



本部港のバス停位置

## 3) 臨時バス・シャトルバス

現在は運行していない行先について、クルーズ船寄港に合わせて運行する臨時バス・シャトルバスは有効な交通手段である。

ただし、船社の販売するオフィシャルツアーと重複する美ら海水族館等の観光地向けのシャトルバスについては、オフィシャルツアーとの価格差が大きくなるため、船社から運行中止を求められる可能性が高い。

このため運行する際は、行先について船社と事前に調整することが重要である。

## 4) タクシー

沖縄県内のタクシーは主に「沖縄県ハイヤー・タクシー協会」に加入する法人タクシーと、未加入の個人タクシーに区分される。

法人タクシーについては、車両数が登録されているため、正確な台数が把握できるが、個人タクシーについては、主に「沖縄県個人タクシー事業協同組合」、「那覇個人タクシー事業協同組合無線」、「琉球個人タクシー事業協同組合」、「沖縄中部個人タクシー事業協同組合」の4つの組合に登録している車両が多いが、これらにも登録していないタクシーが存在するため、正確な台数の把握は困難である。

このため、県内のタクシーを推計方法として「全国ハイヤー・タクシー連合会」による“法人タクシー、

## 第1章 基礎調査

個人タクシー車両数調査”、及び「沖縄県ハイヤー・タクシー協会」の“タクシー登録数”から類推することが可能である。沖縄県内の法人タクシーはいずれの調査も約 3,500 台であり、本島北部では 150 台が運行している。

また、個人タクシーについては、全国ハイヤー・タクシー連合会調査において、沖縄県全体で 1,255 台となっているが、大半は中南部を運行し、本島北部地域を運行している車両は一部と考えられる。交通事業者に対するヒアリングでは、名護市内で営業する個人タクシーは以前 50 台前後であったと言われているが、現状は確認されていない。

また、同じくヒアリングにおいて、本部町内の法人タクシーの運行台数は 23 台と言われている。

全国ハイヤー・タクシー連合会調査

法人タクシー	3,498 台
個人タクシー	1,255 台
計	4,753 台

※2018 年度調査による法人・個人タクシー  
 ※出典：全国ハイヤー・タクシー連合 HP  
 (<http://www.taxi-japan.or.jp/>)

沖縄県ハイヤー・タクシー協会登録数

本島南部支部	2,117 台
本島中部支部	714 台
本島北部支部	155 台
宮古支部	199 台
八重山支部	300 台
計	3,485 台

※2019 年度時点の法人タクシー数  
 ※出典：沖縄県ハイヤー・タクシー協会 HP  
 (<http://www.oki-taxi.or.jp/>)

### 5) レンタカー

沖縄観光において、レンタカーは主要な移動手段であり、入城観光客数の増加と比例して、レンタカー台数も増加し、2019 年3月の登録車両数は約 36,000 台(乗用車)に達している。

レンタカー事業者は、一般的に夏場に車両を追加して台数が最大となり、その後シーズンオフに車両を減らしていくため、実際には、3月時点の本調査より最盛期にさらに多くの車両が利用されていると考えるべきである。

利用者の大半は、那覇空港を起点とするため、多くの事業者が那覇近郊に本店・営業所を構えている。一方、既に現在も本部港周辺に複数のレンタカー事業所があり、需要が多ければ、さらに拡大し、他の営業所からレンタカーを移動するような一時的な対応も可能である。

ただし、沖縄のレンタカー事業の特徴として、多くの観光客が那覇空港近郊の営業所で自動車を借り、返却もその営業所で済ませるため、事業者側としては非常に効率が良いと言われている。

他地域のように、乗り捨てサービスが多く、事業者が移動しなければならない場合、多大な労力とコストが掛かり、現状の単価を維持することは難しいと言われており、本部港においても安定的な需要がポイントになると考えられる。

沖縄県内のレンタカー登録台数(2019)

	沖縄本島	島嶼部	計
事業者数	542	270	812
乗用	28,152	7,599	35,751
貨物	3,846	535	4,381
特殊	421	79	500
乗合	72	9	81
二輪	460	76	536
計	32,951	8,298	41,249

※出典：業務概況(R01 沖縄総合事務局)



## 6) レンタサイクル

気軽で環境にやさしく、健康志向者ニーズの高い移動手段として、近年は自転車の人気が高まっている。北部地域においても複数の地域でレンタサイクルが運営され、参入を検討する事業者も存在している。

レンタサイクルは初期投資が少なく、比較的参入しやすい業種であるが、レンタル中に故障するとトラブルにつながるため、日常的なメンテナンスが必要である。

レンタサイクル事業に取り組んでいる事業者は複数存在するが、しっかりと営業している事業者は、貸出スタッフの育成にも力を入れており、貸し出す前のサドルの高さ調整や空気圧の確認、日常整備としてパンク・ブレーキの修理等ができるように講習を受けさせている。

また、日常点検で対応できないメンテナンスは数か月ごとに外部の自転車店に委託しており、一般に自転車の維持管理コストは、1年間でその自転車の購入金額に匹敵すると言われている。

また、利用者の中には、途中で自転車が故障してそれ以上移動できなくなったり、遠くに行きすぎて戻れなくなってしまう人もいるため、ピックアップサービス等も必要になる。

サイクリストに人気の高い“瀬戸内しまなみ海道”の例では、タクシー協会と連携し、一部のタクシーに自転車のキャリアを設置し、自転車に乗れなくなった人が自転車ごと移動できるような仕組みづくりに取り組んでいる地域もある。